

弘前大学大学院人文社会科学研究科

Hirosaki University Graduate School of Humanities and Social Sciences

修士課程



2026



目 次

研究科長メッセージ.....	1
人文社会科学研究科の特色.....	2
研究環境.....	4
担当教員.....	6
諸費用と奨学金.....	9
入学試験.....	10
社会人の研究を支援する制度.....	12
社会に開かれた大学院として.....	13
大学院生の声.....	14
修了生メッセージ.....	16
修了生の進路.....	17
Q & A.....	18
アクセス.....	20

研究科長メッセージ

弘前大学大学院人文社会科学研究科(修士課程)は、1999年4月に設立されました。以来20年以上にわたって、人文社会科学分野の高度専門人材を数多く輩出し、北東北地域における人文社会科学系の修士課程教育の主要拠点の一つとして、その責務を果たしてきました。

本研究科は、考古学、文学、芸術学、哲学、歴史学、言語学、国際地域学、法学、政治学、経済学、会計学など、人文社会科学分野のほとんど全ての専門分野を網羅しています。そうした環境の下で学生は講義や演習を受け、自らの関心に沿ってテーマを選んでいきます。

学生の研究はきわめて多彩です。ある学生は、出土する「酒器」の分布や関連資料から、それらが流通した当時の社会的状況を描き出しています。またある学生は、「長時間労働」に対する法の課題を、膨大な論文・判例と現実の職務変化を照合させながら明らかにしています。いずれも確固とした視点をもって丹念に研究されており、高い評価の下に学位が授与されています。

これらの研究には、もう一つ特徴が見受けられます。すなわち、領域横断的な思考がみられることです。物事を一つ見れば、関連する事項が次々と生じるものですが、それを一過性の興味に終わらせず、多様な教員の専門的知見・方法論も活用しながら、興味を学問的なテーマに変えて研究を進めています。

2020年4月に本研究科は、改組を経て新しく設置されました。その目的は、従来から研究科が持っていた「専門を究め、領域横断的に思考する」という特徴を、より明示的に大学院教育のカリキュラムに反映させることにあります。専攻を「人文社会科学専攻」にまとめて100以上の専門科目を開くとともに、新たに多領域横断型科目(現代の主要テーマを多様な学問分野から検討する講義・演習科目)を設けたことは、その一例です。また、学生の多彩な研究を披露する論文報告会も強化され、より活発な学際的議論の場になっています。

新しい人文社会科学研究科は、学究的環境に恵まれた弘前の地で、専門的知識と技能を身につけ、幅広い視野と領域横断的な思考によって社会の諸課題に取り組むことのできる人材を育成します。



研究科長
飯島 裕胤

専門分野：応用理論経済学、金融論

人 文 社 会 科 学 研 究 科 の 特 色

弘前大学大学院人文社会科学研究科〈修士課程〉は、人間と文化、社会に対する理解を、学問的に深めることを目的としています。大学院での研究を通じて、専門性を高めることはもちろん、考察を領域横断的に広げることにも可能にすることを理念として、カリキュラムを設定しました。本研究科は、人文社会科学のほぼ全分野を網羅する教員構成を活かして、この理念を実現します。

グローバル化と共生の時代

現在、グローバル化の進展にともなって、世界全体が価値の多様化の方向へと進んでいます。そのため、近年の実社会が直面する課題は、ますます複雑化しています。その一方で、たとえばすぐれた独自の文化を守るために学問的知見を積極的に活用し、次世代を育てるような動きが生まれています。これらは自律的かつ共生的な動きで、世界各地で新しい力をもちはじめています。

このような時代に人間と社会を真に理解するには、人類の歴史や文化、社会の成り立ちを根本から考えることと、複数の専門領域にまたがる理論・方法論を活用する柔軟さの両方が求められます。

本研究科の専攻とコース

本研究科は、人文社会科学専攻に、入学者が専門性を高めつつ領域横断的に研究を広げることのできる、最も適したコースを配置しました。学問的体系性を明確に打ち出すとともに、専門の横のつながりを意識した配置にしています。

各コースの目的

3コースの目的は次のとおりです。

〔文化芸術コース〕

国内外の文化資源を人類共通の文化遺産として次世代に伝えていくという明確な目的意識のもと、共生という視点に立って他国の文化的価値を尊重しつつ、国内外の文化遺産に関する知見を人間社会全体の発展に役立てることのできる人材を養成します。

〔現代共生コース〕

グローバル化と共生の時代において、固有の歴史的背景や多様な地域特性を備えた世界各地域の社会情勢に通じることによって、多様性という観点に立って各人の人権に配慮した法制度・社会制度の下での共生社会の実現に寄与する人材を養成します。

〔政策科学コース〕

グローバル化が進展している状況の中で、一段と複雑化・多様化する政策上の諸課題に直面している国・地方自治体・企業等に対して、政策の分析・評価及びデータ面での環境整備等を通して、的確な助言や適切な提言を与えることのできる人材を養成します。

弘前大学大学院人文社会科学研究科〈修士課程〉
【学位：修士（人文社会科学）、Master of Humanities and Social Sciences】

人文社会科学専攻

〔文化芸術コース〕

文化財論分野
日本語・日本文学分野
思想・芸術科学分野

〔現代共生コース〕

言語科学分野
歴史地域学分野
国際地域論分野
現代法政論分野

〔政策科学コース〕

経済・統計分析分野
政策評価分野
会計情報分野



授業科目

人文社会科学部研究科では、専門研究と領域横断研究に力点を
おいた以下の授業科目群と教育プログラムを設定しています。

専門技能系科目(アカデミックライティング)

研究計画の構想から論文の執筆・発表まで、専門研究に必
要な技法を体系的に学ぶ科目です。

専門科目

人文・社会科学分野の100以上の専門科目から構成され
ます。科目は研究指導領域にあわせて、コースごとに3～4
つの「系」に分類されています。他コース科目の履修も求めら
れます。

[文化芸術コース]

文化財論系 日本語・日本文学系 思想・芸術科学系

[現代共生コース]

言語科学系 歴史地域学系 国際地域論系 現代法政論系

[政策科学コース]

経済・統計分析系 政策評価系 会計情報系

多領域横断型科目

領域横断研究のための科目です。さまざまな専門領域にわ
たる理論・方法論を積極的に活用して、研究課題に対する理
解・洞察を深めます。次の3科目です。

多領域横断型科目A「文化芸術社会の展望」

多領域横断型科目B「グローバル化と共生社会」

多領域横断型科目C「共生の時代の経済・産業政策」

特別研究/プロジェクト研究

修士論文または個別課題報告書の作成のための研究指導に
特化した科目です。演習形式の指導を受けます。

実践的教育プログラム

研究成果の発信と相互共有のために、全コース共通で「修
士学位論文等中間報告会」と「修士学位論文等成果発表会」を
行います。報告のための準備と、報告後の研究課題の更新を
含めたプログラムです。

修了要件

本研究科を修了し、修士学位を取得するためには、以下の要
件を満たす必要があります。

- (1) 授業科目を30単位以上修得すること。
- (2) 修士論文または個別課題報告書を提出し、審査と最終試験
に合格すること。
- (3) 2年以上(優れた業績をあげた者は、1年以上)在学すること。

教員免許状(専修免許状)の取得

本研究科の専門科目には、教員免許状(専修免許状)の取得に必要な授業科目が含まれています。希望する免許教科の要件となる授業
科目を24単位以上取得すれば専修免許状が授与されます(4年制大学の教職課程において同じ教科の一種免許状を取得していることが
必要です)。

本研究科で取得できる専修免許状は、下表のとおりです。

取得できる免許状	
種類	免許教科
中学校教諭専修免許状	国語、社会、英語
高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、英語、商業

研究環境

人文社会科学部研究科は、落ちついて研究ができるような環境整備に努めています。その一部を紹介します。

大学院生研究室

大学院生は大学院生研究室(院生室)を利用することができます。院生室には、大学院生全員に研究用デスクが1台ずつ割り当てられています。大学院生は院生室で研究しながら、授業科目の準備、修士論文・個別課題報告書の執筆などに取り組むことができます。

研究支援制度

大学院生の研究を支援するために、院生室毎にコピーカードが貸与されています。一定の上限はありますが、研究のために必要な文献等の複写に利用することができます。

また、他大学の図書館から文献等を借用する場合、またはその複写を依頼して取り寄せる場合の費用についても補助金を一定額支給しています。

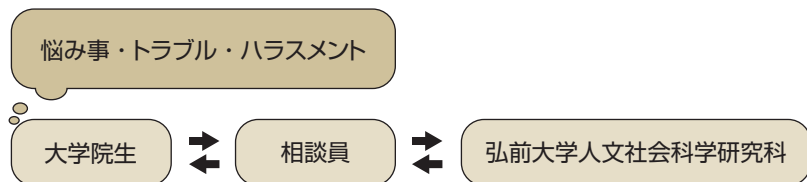
相談員制度

大学院生の疑問や悩みに対応するために相談員制度があります。相談員は、相談者のプライバシーが保たれるよう、また、不利益が生じないように配慮しつつ、関係各所と連絡・協議して、問題解決にあたります。

授業科目、研究指導、成績評価に関する疑問・質問・苦情、メンタルヘルスやハラスメントに関する悩み、その他研究生活全般に関する事柄について相談を受け付けています(相談者のあらゆる不安に応えられるよう、研究科だけでなく全学の相談窓口も設けています)。

また、専門の学生相談員・ハラスメント相談員を設け、授業や生活に関する相談の他、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントなどに関する苦情を受け付けています。

深刻・重大な問題が生じた場合も、本研究科または弘前大学が責任をもって対応します。



修士学位論文等中間報告会 (FD公開発表会)

本研究科では、大学院生の研究活動の中間報告会として、修士学位論文等中間報告会(FD公開発表会)を毎年度2回開催しています。大学院生がお互いの研究を発表し合い、質疑応答を行い、ステップアップする機会となっています。同時に、ファカルティ・デベロップメント(FD)活動の一環として、担当教員が研究指導の成果を確認し、研究指導の方法を点検・改善する機会となっています。

今年度の開催予定は次の通りです(一般の方の来場も歓迎しています)。

2025年度前期 修士学位論文等中間報告会(FD公開発表会)

日時 2025年4月23日(水) 14:30~
会場 弘前大学文京町キャンパス人文社会科学部校舎4F 多目的ホール

2025年度後期 修士学位論文等中間報告会(FD公開発表会)

日時 2025年10月29日(水) 14:30~
会場 弘前大学文京町キャンパス人文社会科学部校舎4F 多目的ホール



修士学位論文等成果発表会

本研究科では、修士論文・個別課題報告書を提出した大学院生による研究成果の最終報告会として、修士学位論文等成果発表会を毎年度2回開催しています。

今年度の開催予定は次の通りです(一般の方の来場も歓迎しています)。

2025年度前期 修士学位論文等成果発表会

日時 2025年7月23日(水) 14:30～

会場 弘前大学文京町キャンパス人文社会科学部校舎4F
多目的ホール

修士論文・個別課題報告書 タイトル(2024年度)

2024年度(2024年9月・2025年3月)に本研究科を修了した大学院生の修士論文・個別課題報告書のタイトルは次のとおりです。

人文社会科学専攻

- ・アイヌ民族の首飾リシトキタマサイの編年と地域性
- ・日本と台湾におけるサウンドスケープ研究：R.マリー・シェーファアの音響生態学を基盤として
- ・アントニン・ドヴォルジャーク Antonín Dvořák《詩的な音画 Poetické nálady》Op. 85 (1889) の民族性の表現—楽曲分析を中心に—
- ・円筒土器文化圏における骨角器の製作と利用
- ・大村益次郎・小考—教育思想家としての再評価—
- ・景観保護地域における「風景」—「商丘古城」と「平遥古城」の事例から
- ・三次元復元技術を用いた弘前ねぶたの記録と活用に関する研究
- ・炭化種実から見た東北の水稲農耕文化の受容過程
- ・坂口安吾の怪談作品の美意識について—「桜の森の満開の下」「夜長姫と耳男」「紫大納言」を中心に
- ・東京語アクセントの聞き取り能力と音韻的作動記憶の関係

2025年度後期 修士学位論文等成果発表会

日時 2026年1月28日(水) 14:30～

会場 弘前大学文京町キャンパス人文社会科学部校舎4F
多目的ホール

※修士学位論文等中間報告会・修士学位論文等成果発表会の日時・会場は変更になる場合があります。人文社会科学部ホームページでご確認ください。



- ・Rethinking The Illustrated Man : The Change of How the Science Fiction Exists
- ・Reading Wuthering Heights as Domestic Fiction : From the Description of Fathers in the Story (家庭小説としての「嵐が丘」新解釈—父親の描写に着目して—)
- ・A consideration for English Pronouns (英語の代名詞に係る一考察)
- ・企業の資金制約が輸出に与える影響—国際金融危機からの実証分析—
- ・教育水準と関連した経済的地位の世代間流動性が所得格差及び経済成長の長期的関係に与えるインパクトの研究—理論の検討—
- ・タックスヘイブンの利用が経営者報酬に与える影響
- ・大学進学に伴う若者の地域間移動の変容
- ・越境経験と異文化：中島敦作品における他者と自己
- ・経験観光論—サウンドスケープ思想による視覚的観光の相対化—

文化科学専攻

- ・小学生・中学生・高校生の学習観の構造

担当教員

文化芸術コース

教 員	研究指導の領域	研究指導の特色
関 根 達 人	文化財論、歴史考古学	歴史的文化財、特に考古資料について古文書や民具などと組み合わせて研究するとともに、研究成果を地域の文化振興に役立てる基礎力と実践力(報告書・論文執筆、研究発表)の習得を目指します。
上 條 信 彦	考古学	考古学の基礎理論の習得と、専門職に必要な発掘や分析を通じた実践的技能とプレゼン能力を身につけることを目指します。
出 佳奈子	視覚文化学、美術史	西洋の中世後期から近世にかけての西洋の視覚文化(絵画・彫刻・版画・写本等)を手掛かりに、社会におけるイメージと人と関係を考察・探求することを通じて、現代の視覚文化理解へとつながる視座を身につけることを目指します。
佐々木 あすか	芸術史、日本美術史、仏教美術史	日本の美術作品(仏像、絵画、工芸等)をもとに、作品の基礎知識、分析法を身につけます。また史料等を活用しながら、作品とそれを取り巻く文化、歴史背景を多角的に考察することを目指します。
山 田 厳 子	民俗学、庶民文化史	日常の中から民俗学的課題を発見し、対象にふさわしい調査方法を考え、学史上に位置づけながら論文を作成する力を養います。
葉 山 茂	博物館学、環境民俗学	フィールドとの相互交渉により地域文化に対する理解を深める博物館学的、民俗学的手法を通じた地域文化への接近方法を学ぶとともに、博物館活動自体を比較検討したり客観化したりして評価することで深化するための力を養います。
片 岡 太 郎	文化財科学、保存科学	文化財の状態診断と保存技術を習得し、実践を通して決断力と技術力を養います。また、文化財に用いられている材質や技法研究から価値を理解し、文化の発信力を養います。
出 口 誠	和漢比較文学、日本古典文学	平安時代を中心に、和文漢文を問わず、様々な文体を多角的に検討します。日本古典文学を東アジアとのかかわりから捉え、考察することを目指します。
帆 苅 基 生	日本近現代文学	日本の近現代文学を、文学理論、資料調査方法、同時代言説の参照方法等を学びながら分析していきます。文学テキストを多角的な視点で捉え、分析が行えるよう、様々な知識や方法を学びます。
市 地 英	日本語史学	日本語の歴史的な諸事象を課題とし、日本語史資料にあたり資料背景、表記、言語への理解を深めた上で、適切な調査・分析方法に基づいた論文執筆を目指します。
片 岡 美有季	日本近現代文学	日本近現代文学を研究するための方法論や研究の歴史、資料調査の基本を学び、探求します。また、批評的な視点を養い、自らの問題意識に基づいて問いを立て、文学テキストを分析的に読解し、理解することを目指します。
新 永 悠 人	日本語学、方言学	人が話す言葉(方言や共通語)のしくみを総合的に捉える方法を学びます。対面調査などを通して発音、単語の構成、文中の単語の順序、文と文脈の関係、歴史的变化などに迫ります。
高 橋 千代枝	日本語教育学・語用論	日本語を外国語として教えるために必要となる領域横断的な高度専門知識と技術を学びます。また、刻一刻と変化する話し言葉について、マルチモーダルな視点から詳細に分析する方法や、他言語との比較等の手法により、言語の特徴を明らかにするための分析的視点を身につけます。
横 地 徳 廣	哲学	欧米や日本の哲学テキストを読解し、あるいは、さまざまな芸術作品を哲学的観点から解釈します。
原 克 昭	日本倫理思想史、日本神話、宗教文芸	倫理思想概念をベースとして、日本の思想・宗教・文化・文芸の視座から時代縦断・ジャンル横断しながら、過去と現代を往還する“日本人像”の再発見をします。文献講読・資料調査・思惟思考することで、《修士論文》の執筆・完成を目指します。
劉 青	中国思想史、道教思想、医学思想	中国思想史を中心に、漢文読解力を養成しつつ、古典文献の理解・考証・分析能力修得を目指します。中国思想の形成や展開を把握し、独自の問題意識を涵養し、修士論文の執筆・完成を目指します。
朝 山 奈津子	音楽学、西洋音楽史	楽曲分析や演奏の分析、音楽批評および歴史記述の読み解き、また、外国語を駆使しての資料収集の技術を養い、西洋の音楽作品や音楽文化を歴史的観点から理解することを目指します。
今 田 匡 彦	音楽・サウンドスケープ研究	サウンドスケープを基盤として生まれた音楽という人間の営みを、言語、社会・文化、環境、芸術、教育などの切り口により多角的に理解していくことを目指します。



現代共生コース

教 員	研究指導の領域	研究指導の特色
諸 限 夕 子	言語類型論、記述言語学	身近な日本語諸方言から様々な外国語まで、その仕組みを分析する力を養います。特に、ある言語の特徴を他の言語と比較する言語類型論を指導の中心とします。
齋 藤 章 吾	英語学	英語の構文や発音などに関する規則について、統語論・音韻論・意味論などの多角的な観点に基づく分析を行いながら理解を深めることを目指します。
畑 中 杏 美	イギリス小説	変容するイギリス社会と人々とのつながりが作品にどのように表されるのか読み解く力を身につけることで、イギリス小説をより深く理解することを目指します。
堀 智 弘	アメリカ文学	アメリカ文学作品の精読を通して、個々の作品が同時代の文化的諸力にどのように呼応して成立したのかを考察し、アメリカ文化が発展してきた歴史的過程を深く理解することを目指します。
中 島 崇 法	英語学(統辞論およびその関連領域)	生成文法理論の方法論に基づき、英語の統辞的特徴を客観的に分析します。またこれを通じて、英語などの人間言語について深く理解することを目指します。
土 屋 陽 子	アメリカ文学	世紀転換期(19-20世紀)のアメリカ文学作品を通して、現代アメリカ社会が如何にして形成されてきたかを考察します。特に、文学作品にみられる女性表象について考察することで、アメリカ社会における女性像の変遷と女性の自己形成についての理解を深めることを目指します。
野 呂 徳 治	第二言語習得研究、外国語教育学(英語教育)	第二言語(外国語)の習得・学習のプロセス及びそれに影響を与える要因について、認知的・情意的・社会的側面を始めとした多様な側面から考察し、理解を深めることを目指します。
今 井 正 浩	西洋古典学(古代哲学思想史、科学思想史、医学思想史、古典ギリシア語、ラテン語)	ヨーロッパの文化的源流をなす古代ギリシア・ローマの古典を総合的に研究するという立場から、人間や社会の諸課題について原理的に考えるための基礎理論・方法論を学びます。
中 村 武 司	西洋史	西洋史の諸問題にかんして、当該分野の先行研究の理解と、様々な一次史料の厳密な読解・考察を進め、論文執筆を目指します。
永 本 哲 也	ヨーロッパ地域学(ドイツ語圏)	ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ諸地域の様々な側面を、学術的な文献の読解を通じて学んでいきます。さらに、先行研究を自ら整理し、資料を精読し、自分なりの論を立てるための力を実践を通じて養います。
荷 見 守 義	中国史	中国史(李朝史を含む)、特に中国近世史のあらゆるテーマに取り組むための漢文読解力及び研究基礎力の養成と、修士論文作成に至るまでの研究指導を行います。
亀 谷 学	ユーラシア史	イスラーム世界の歴史を中心に、広く西アジア・中央アジアの文明について資料と体験をもとに理解を深め、多様な文化を背景とする人々と共に活動するための力を養います。
古 川 祐 貴	日本史学(日本近世史)	日本史(日本近世史)の研究に最も必要な史資料(古文書など)に一つでも多く触れること、そしてオリジナルの史資料が持つさまざまな情報を的確に読み取り、総合的に歴史を構築していく力を養っていきます。
大 谷 伸 治	日本近現代史	関連論文の読解を通じて、日本近現代史上の諸問題についての理解を深めるとともに、研究テーマを設定し、史料収集・分析によって独自の歴史像を構築することを目指します。
泉 谷 安 規	フランス文学・思想	19世紀および20世紀のフランスの文学・思想作品を精読することによって、それらの作品の特徴や独自性を読み解き、あわせて社会的・歴史的・文化的背景を理解することを目指します。
バトラー, アラスデア	コーパス言語学、プログラミング言語	生成文法、コーパス技術、動的意味論、関数型プログラミングの分野で、自然言語を理解するための研究をします。特にデジタル・ヒューマニティーズにおけるコンピュータ技術の習得と実践を目指します。
フルト, フォルカー	平和論	グローバルな視野から、平和と紛争に関する様々な課題を取り上げます。幅広い文献の読解と議論を通じて、平和論の主な理論と方法、それから紛争の解決方法の実績と問題点を科学的に理解することを目指します。
高 内 悠 貴	アメリカ史、ジェンダー研究	現代アメリカ社会の諸問題について、歴史的な観点から理解を深めることを目指します。アメリカ史の鍵となる人種やジェンダーといった概念を分析に用いる力を養います。
富 田 晃	民族芸術、ラテンアメリカ・カリブ海地域研究	民族芸術研究もしくはラテンアメリカ・カリブ海地域研究の研究指導を行います。民族芸術に関しては創作・教育・普及などの活動実践研究を行い、ラテンアメリカ・カリブ海地域研究に関しては日本語に加えスペイン語や英語の文献研究やフィールドワーク調査などを行います。
澤 田 真 一	ニュージーランド文学	先住民族マオリと白人の文学を比較することで、現在の二文化共生をうたうニュージーランドのポストコロニアルな状況を考察していきます。

現代共生コース(つづき)

教 員	研究指導の領域	研究指導の特色
山 田 敦 士	現代中国論、民族言語学	現代中国やその関連地域を民族や言語といった視点から読み解き、その多様なあり様を理解していきます。文化相対的な考え方や態度を重視します。
諏 訪 淳一郎	文化人類学、現象人類学	生物種の一つであるヒトが人間として生きる条件を知るために、日本や世界の文化と社会現象をフィールドデータとして分析する作法を学び、そこで得た事例を文化人類学的研究にまとめることを目指します。
生 田 裕 也	憲法	判例や文献の精読を通じて、憲法上の諸問題を分析し思考するための力を養うことを目指します。
吉 村 顕 真	民法	民法上の問題を検討するための基礎的研究能力を身につけることを目的としています。そのために、まずは民法の論文や判例などの報告及び議論を通じて、自分の問題意識を徐々に深めてもらいます。
平 野 潔	刑法、刑事訴訟法、刑事政策	刑法を中心に、刑事訴訟法、刑事政策に関する諸問題について、文献の精読や判例の検討をしながら理解を深め、一定の解決策を示せるようになることを目指します。
長谷河 亜希子	商法、経済法	会社法・独占禁止法・消費者法等に関する諸問題について、比較法的観点も用いながら、論文・判例の検討を通じて理解を深めることを目指します。
渋 田 美 羽	労働法、社会保障法	労働法・社会保障法に関する諸問題について、比較法的観点も用いながら、論文・判例の検討を通じて理解を深めることを目指します。
蒔 田 純	政治学	政治における基本的概念やアクターの役割を踏まえ、現実の政治事象について、各要素間の因果関係を明確にしながら、説明・分析できる力を養います。
児 山 正 史	行政学、地方自治論	行政や地方自治に関する諸問題について、文献の講読と議論、課題の提示とコメントを通じて、多面的に深く考え、論理的・実証的に論じる能力を養うことを目的とします。

政策科学コース

教 員	研究指導の領域	研究指導の特色
小谷田 文 彦	ミクロ経済学、産業組織論	家計・企業の最適行動についての理論や、経済主体が取引を行う市場のメカニズムについて学びます。また、競争が不完全な場合についての分析や、企業活動に関する実証分析も行います。
山 本 康 裕	マクロ経済学	経済成長論及び動学総需要・総供給モデルを理解する事で、マクロ経済の長期及び短期の変動を包括的に分析する能力を涵養します。
福 田 進 治	経済学史	経済学史領域の研究のために必要な理論的分析及び文献的調査の方法を身に付けながら、近代以降の経済理論・経済思想・経済政策の歴史に関連する諸問題を検討します。
金 目 哲 郎	財政学、地方財政論	財政学や地方財政論に関する文献の検討を通して、歴史的・制度論的視点から財政システムの現状と課題を理解し考察できるようになることを目指します。
飯 島 裕 胤	金融論、企業統治論	主に金融の観点から、企業や公的機関のさまざまな行動の動機を理解することを目指します。
李 永 俊	労働経済学、応用経済学	労働市場を取り巻く諸問題を正確に理解し、その解決策を見出すために、理論経済学や計量経済学を用いた分析方法を実践的に習得することを目指します。
潘 鋭	貿易論、国際経済学	貿易理論の最先端を理解し、モデルを用いて政策評価を行い、国際経済学や公共経済学に新たな洞察を得て、研究成果を公表することを目指します。
加 藤 恵 吉	管理会計、税務会計	会計学、特に税務会計、管理会計分野で高度な職業的能力を身につける目的で大学院に来られる方もお待ちしております。研究においては、会計学に関して各自の興味に応じて新たな知見を提示できるような論文を作成できるよう指導する予定です。
内 藤 周 子	財務会計、国際財務報告	近年、企業活動のグローバル化の進展にともない、国際財務報告基準を採択する動きが強まっています。このような状況を踏まえて、会計に関する内容を原書で理解し、基礎概念を習得することを目指します。
商 哲	管理会計、原価計算	管理会計・原価計算分野における会計技法の一般的な理論構造を把握するとともに、トップジャーナルに掲載された論文を精読することで、最新の理論を習得し、実務における会計技法の実践に関する理解を深め、理論と実務との融合を重視します。
熊 田 憲	イノベーション論	イノベーション、特に国や地域が主体となる活動を中心に、イノベーションの意義・価値・成果を問い、そのシステムやメカニズム、マネジメントの体系的な理解を目指します。
林 彦 櫻	経営史、経済史	社会経済史学と経営史学の狭間に研究領域を設定しています。主に戦後日本の自営業史を中心に研究を進めてきましたが、広く日本と中国の中小企業史、産業史、労働史などに関心を持っています。

諸費用と奨学金

検定料・入学料・授業料

本研究科の検定料(受験料)・入学料・授業料は次のとおりです。

検定料	入学料	授業料(1年間)		
		前期	後期	合計
30,000円	282,000円	267,900円	267,900円	535,800円

※各料金の改訂が行われた場合は、改定時から適用されます。

入学料・授業料の免除

入学料と授業料は大学院生の経済的事情により、免除・徴収猶予が認められる場合があります。

過去3年間の入学料・授業料免除実績は次の通りです。※1

	入学料免除 ※2				授業料免除				
	全額免除	2/3免除	半額免除	1/3免除		全額免除	2/3免除	半額免除	1/3免除
2022年度	—	—	26人	—	前期	78人	158人	—	23人
					後期	91人	73人	—	0人
2023年度	48人	19人	—	106人	前期	64人	63人	—	103人
					後期	66人	75人	—	78人
2024年度	15人	1人	—	103人	前期	49人	49人	—	176人
					後期	55人	55人	—	148人

※1 弘前大学大学院全研究科(修士課程・博士前期課程・専門職学位課程全体)春季入学者のみの実績です。

※2 「被災による免除者」を除く免除者数です。

奨学金

日本学生支援機構奨学金(貸与)に申請し、奨学生に採用された場合、奨学金の貸与を受けることができます。

第一種奨学金(修士課程)は、月額50,000円または88,000円の貸与(無利子)を受けられます。

第二種奨学金(修士課程)は、月額最小50,000円、最大150,000円の貸与(有利子)を受けられます。

過去3年間の本学修士課程・博士前期課程・専門職学位課程における日本学生支援機構貸与奨学生数は次の通りです(留学生を除きます)。

	第一種	第二種
2021年度	172人	20人
2022年度	192人	24人
2023年度	225人	29人

その他、各種奨学金(給付・貸与)を申請することができます。

本学へ募集通知が届くものは掲示でお知らせしています。

入学試験

人文社会科学研究科では、一般選抜の他、多様なバックグラウンドをもつ入学者のためのさまざまな特別選抜を行っています。入試日程の予定とあわせて、概要を記載します。

※選抜方法および募集人員は変更となる場合があります。学生募集要項でご確認ください。

選抜方法

選抜方法には、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、推薦特別選抜、協定校推薦特別選抜があります。出願資格は、4年制大学を卒業した方、または4年制大学卒業者と同等の学力を有する方であることです。

一般選抜	筆記試験(200点)、口述試験(100点)を総合して行います。
社会人特別選抜、 外国人留学生特別選抜	筆記試験(100点)、口述試験(200点)を総合して行います。 社会人特別選抜を受験できる方は、入学予定時に大学卒業後2年以上経過した方です。 外国人留学生特別選抜を受験できる方は、日本国籍を有しない方で、修学に必要な程度の日本語能力を有する方です。
推薦特別選抜	筆記試験を行わず、口述試験(300点)を行います。 推薦特別選抜を受験するためには、出身大学の指導教員から推薦され、合格した場合には入学を確約できること、修得単位数の6割以上が「優」(80点)以上の評価を得ていることなどがが必要です。
協定校推薦特別選抜	試験を行わず、提出された書類で選考します。 協定校推薦特別選抜に出願するためには、本学の協定校の在籍者または卒業者であること、志望する専攻と関連する系統の専門教育を受けたこと、協定校の指導教員および学長または学部長(研究科長)から推薦され、合格した場合には入学を確約できることなどがが必要です。

募集人員

本研究科には、秋季(10月)と春季(4月)の入学区分があります。

2025年度秋季入学(2025年10月入学)

	一般選抜	特別選抜		
		社会人	外国人留学生	協定校推薦
人文社会科学専攻	若干名	若干名	若干名	若干名

2026年度春季入学(2026年4月入学)

	一般選抜	特別選抜			
		社会人	外国人留学生	推薦	協定校推薦
人文社会科学専攻	16名				

※一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜は、第1期と第2期に分けて2度行います。入学志願者は、第1期と第2期のいずれか、又は両方を受験することができます。

※募集人員は、第1期と第2期の合計数です。



入学試験の日程

2025年度は次の日程で入学試験を実施予定です。これらの他に追加募集を行う場合があります。

2025年度秋季入学(2025年10月入学)

一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜、協定校推薦特別選抜

出願受付期間 2025年4月1日(火)～4月7日(月)

試験実施 2025年5月8日(木)(協定校推薦特別選抜は書類審査のみです)

合格発表 2025年5月15日(木)

2026年度春季入学(2026年4月入学)

一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜(第1期募集)、推薦特別選抜、協定校推薦特別選抜

出願受付期間 2025年7月7日(月)～7月11日(金)

試験実施 2025年8月19日(火)(協定校推薦特別選抜は書類審査のみです)

合格発表 2025年8月28日(木)

一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜(第2期募集)

出願受付期間 2025年12月1日(月)～12月5日(金)

試験実施 2026年1月28日(水)

合格発表 2026年2月5日(木)

※以上の日程は、予定です。入試課ホームページでご確認ください。



大学院説明会の日程

2025年度は次の日程で大学院説明会を開催します。本研究科の概要、出願手続などに関する説明会です。大学院生や修了生の生の声を聞くことができます。

第1回説明会

2026年度春季入学一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜(第1期募集)、推薦特別選抜

日時 2025年5月30日(金) 18:00～19:00

会場 弘前大学文京町キャンパス人文社会科学部校舎4F多目的ホール

第2回説明会

2026年度春季入学一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜(第2期募集)

日時 2025年10月10日(金) 18:00～19:00

会場 弘前大学文京町キャンパス人文社会科学部校舎4F多目的ホール

※日時・会場は変更になる場合があります。人文社会科学研究科ホームページでご確認ください。



社会人の研究を支援する制度

近年、複数の社会人が入学されており、それぞれの方が研究に励んでいます。人文社会科学研究科では、これらの社会人の研究を支援する制度をおいています。

社会人特別選抜

入学試験では、口述試験を重視します

入学予定時に大学卒業後2年以上経過した方は、社会人特別選抜を受験することができます。社会人としての意欲と経験を重視します。配点は、口述試験が200点、筆記試験が100点です(10ページをご参照ください)。最近の合格者数は次のとおりです。

	2022年度	2023年度	2024年度
合格者	4人	3人	2人

教育方法の特例措置

夜間等の開講も可能です

指導教員や各授業担当教員、他の受講生等との調整が必要となりますが、社会人の場合、授業時間帯を夜間等に設定する制度もあります。

長期履修制度

2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます

社会人の方の就学を容易にするとともに、経済的負担等の軽減を図るために、長期履修制度を実施しています。この制度の適用対象者は、(1)官公庁、企業等に在職中の方、(2)自ら事業を営んでいる方、(3)その他本研究科が認めた方です。認定された方は、2年分の授業料で最長4年間かけて研究に取り組むことができます。

通常の学費(2年間在籍)

入学料: 282,000 円

授業料: 535,800 円(年額) × 2 年間

長期履修制度(4年間在籍)

入学料: 282,000 円

授業料: 267,900 円(年額) × 4 年間

個別課題報告書

仕事に関連する報告書で学位を取得することができます

修士論文の代わりに自身の仕事や社会活動に関わる課題について調査・検討した個別課題報告書を提出することで、学位を取得することができます。例えば次のようなものです。

- ・自身のフィールド・ワークに基づいた調査報告書
- ・企業の事例を資料やインタビューに基づいて記載し、自らの考察を行った報告書
- ・公務員が職場で直面している問題やその解決策について論じた報告書
- ・高校教員が大学院で学んだ知見を授業で用い、その成果をまとめた報告書
- ・最新の研究結果と現行の学習指導要領・教科書の内容を踏まえた新たな学習指導案

社 会に開かれた大学院として

大学院生以外の方が授業を履修・聴講するための制度について記します。

科目等履修生・研究生・聴講生

本研究科の正規の大学院生でない方でも、科目等履修生・研究生・聴講生として本研究科に入学し、本研究科で学ぶことができます。

科目等履修生

科目等履修生は、本研究科の授業科目を履修し、所定の単位を修得することができます。単位の修得が認められた方には、単位修得証明書が交付されます。修得した単位は、研究科に入学後、研究科において修得した単位とみなすことができます。

科目等履修生の出願資格は、4年制大学を卒業した方、または4年制大学卒業者と同等の学力を有する方であることです。所定の検定料(入学審査料)・入学料・授業料を納付しなければなりません。

研究生

研究生は、本研究科で専門的なテーマについて研究を行うことができます。研究指導を受けながら、博士課程進学準備などを行うことができます。

研究生の出願資格は、修士の学位を有する方、または修士学位取得者と同等の学力を有する方であることです。所定の検定料(入学審査料)・入学料・授業料を納付しなければなりません。

聴講生

聴講生は、本研究科の授業科目を聴講することができます(単位を修得することはできません)。

聴講生の出願資格は、4年制大学を卒業した方、または4年制大学卒業者と同等の学力を有する方であることです。所定の検定料(入学審査料)・入学料・授業料を納付しなければなりません。

諸費用

科目等履修生・研究生・聴講生の検定料(入学審査料)・入学料・授業料と、市民カレッジの受講料は次の通りです。

	検定料	入学料	授業料(受講料)
科目等履修生	9,800 円	28,200 円	1 科目 29,600 円
研究生	9,800 円	84,600 円	半年間 178,200 円
聴講生	9,800 円	28,200 円	1 科目 29,600 円
市民カレッジ	—	—	1 科目 11,500 円

※各料金の改訂が行われた場合は、改定時から適用されます。

人文社会科学研究所 〈市民カレッジ〉

本研究科では、一般市民の方に大学院で学ぶ機会を提供するために、人文社会科学研究所〈市民カレッジ〉を開講しています。1科目ずつ受講できる市民講座です。働きながら学ぶ社会人の方々の受講をお勧めしています。

市民カレッジの特色

市民カレッジは「ノン・ディグリープログラム」(学位の取得を目的とせず、知識・技術の修得を目的とする課程)です。授業科目の単位を修得することはできませんが、授業科目の成績は、本研究科に入学した場合、その授業科目の正規の単位に振り替えることができます。

市民カレッジでは、10の専門分野からなる専門科目を正規の大学院生と一緒に受講することができます。受講資格は4年制大学を卒業した方、または4年制大学卒業者と同等の学力を有する方であることです。

市民カレッジの受講料は1科目11,500円になります。検定料・入学料は必要ありません。

開講科目の詳細は、人文社会科学研究所ホームページでご確認ください。



大学院生の声

人文社会科学専攻 現代共生コース

斉 藤 文 誉

進学動機と研究内容

英語学を専攻として研究をしています。具体的な研究内容はインターネット上で使用される“wait for it”という表現を統語論・語用論的に分析することを主に行っています。

進学前も英語学ゼミでhave a ~ やtake a ~のような軽動詞構文の間の違いについての研究を行ってきました。

進学先として決めた理由は、英語という言葉に対する理解を学部生の時より深めたいと強く思ったからです。

大学院に入学してみて最初に感じたのは自由度の高さです。自分が課題に感じたことを特別研究の授業で担当教員に相談できることは研究テーマを決める上で非常に助けになりました。また、私は教員の専修免許を取得するために取るべき授業が多々ありましたが、それでも自身の研究に割ける時間は多かったように感じます。ですがこれらの授業は一つ一つ非常に深い学びを得られるもので、少人数での開講のため一回の授業で発

言する回数が多く、他の受講生の方々との意見交換など興味深いものでした。また、分野横断的な授業では今まで知識が乏しかった分野についての講義を受けることで様々な分野についての知識を深めることができた上に、論文の書き方の授業もあり、大学院での活動をサポートしてくれる授業もありました。これらの授業を1年生のうちに受講できるものは受講してしまい2年生では自身の研究に打ち込めるような環境づくりが大切だと思いました。このおかげで2年生では受講する授業を特別研究など少数の授業のみにすることができ、多くの時間を研究に割くことができました。

これまでの研究の流れとして、1年生のうちはデータや文献の収集を積極的に行う準備期間として、2年生では得られたものを分析し、それを深めて論文に落とし込む期間でした。在学中は担当の教授に多くのことを教えていただき、とても有意義な時間とすることができました。

大学院生の一年(M2の年間スケジュール)



4月

研究活動…研究内容と関連した現象について扱っている論文を収集し、読んでいく

5月

研究活動…教員採用試験の対策と並行しながら研究を進める

6月

研究活動…論文のテーマに説明を与えられるものかを判断しつつ今まで収集した情報を整理する

7月

研究活動…教員採用試験が終了し、研究に力をいれる

8月

研究活動…断片的に書きたいことを挙げていき、担当教員と相談する

9月

研究活動…不足している点を補うために必要な情報を収集する

10月

研究活動…論文を形にしていく

11月

FD発表会…発表会に向けて資料作成をし、発表の際に参加者からもらった指摘を参考に論文の内容を改善する

12月

修士論文提出…担当教員と綿密に相談し、論文を完成させ、提出する

1月

修士論文成果発表会…論文を読み、不足している点を改善し、発表会に臨む

2月

口頭試問…論文を読み込み、口頭試問の準備をする

3月

修了式(大学院学位授与式)

進学動機と研究内容

私は日本文学を専攻し、昭和初頭から戦時中に活躍した作家、堀辰雄の作品を中心に研究しています。私は学部時代に中国の大学で船舶海洋工学を専攻しましたが、研究内容が自身の関心と合わなくて苦しんでいました。大学2年生の時に他分野の選択科目で「日本文学鑑賞」という授業を選択し、日本文学に強く魅かれました。大学3年生の頃から日本語を勉強し、日本文学研究への道を決意しました。

人文社会科学研究科に入学する前に、私は1年程非正規生として学部と大学院の日本文学の授業を聴講した経験があります。その過程で、大学院の少人数授業の形式はとても魅力的だと感じました。大学院の授業は基本的に演習方式であるため、発表後の討論は授業の肝になります。受講生は発言を通して自身の考えを再確認し、また討論を通して他人の考えを吸収します。同時に、発表と討論は質疑応答が必要とされる瞬発力を鍛えてくれるため、発表活動にとっても貴重な鍛錬の機会だと思います。そして大学院の少人数授業は、授業中受講生が発言と

討論する貴重な機会を確保しやすいです。

また、入学後は自身の専攻分野の授業を受講するだけでなく、自身の専攻と隣接する分野や、多領域横断型科目のような他分野の研究を紹介する授業も受講できます。これらの授業を受講することによって、時には自身の研究視野を拡げ、時には研究方向に大きなヒントを得ることがあります。自分の例を言うと、近代日本政治思想史や日本近現代史の授業を受講したことが自分の研究の発展に繋がったと感じています。

大学院の研究生活は授業以外に、学会での発表や学会誌への投稿などの研究活動もできます。私自身も前期に日本近代文学会東北支部で発表し、現在は学会誌への投稿を準備しています。発表や投稿するのを決める度に「本当にできるのか?」という不安もありましたが、指導教員の先生たちが優しく且つ確実に指導してくださったお陰で、今日も前に進めています。大学院への進学を検討している皆さん、自分の興味がある研究に専念し、不安と憧憬が同時に胸の中に躍動するような大学院生活はいかがでしょう?

1 年次前期の時間割

	1・2 時限	3・4 時限	5・6 時限	7・8 時限	9・10 時限～
月		中国古典学 A			日本近代文学論 A
火					
水	グローバル化と共生社会				特別研究 I
木		日本現代文学 A			近代日本政治思想史
金					アカデミックライティング

1 年次後期の時間割

	1・2 時限	3・4 時限	5・6 時限	7・8 時限	9・10 時限～
月					日本近代文学論 B
火					
水	文化芸術社会の展望				特別研究 I
木	中国古典学 B	日本現代文学 B			
金		日本近現代史			



弘前大学大学院 人文社会科学研究科 修士課程

修了生メッセージ

人文社会科学専攻 文化芸術コース修了

菅原 昌彦



在学時の研究内容

弥生時代の津軽平野において水稻農耕がどのように展開したか、ということ明らかにするため、弥生土器の形・文様の変化について研究していました。資料の詳細な観察を通じて器形と文様が共に変化していく様子を見出し、土器の変化を通して社会の変化について考察しました。

在学時の大学院生活の感想

2年間の大学院生活はあっという間でしたが、とても濃密で、人生で一番充実していました。学びたいこと・挑戦したいことに取り組み、自分を大きく成長させられたと思います。また、自分の専門分野以外のことについて学ぶ機会もあり、自身の視野を広げられたと感じています。

大学院の研究と現在の仕事や研究との関連

現在は市役所で文化財の専門職員として勤務しており、主に

埋蔵文化財担当として遺跡の発掘調査やその後の報告書執筆に取り組んでいます。専門的な知識が必要ですが、大学院で学んだことがそのまま業務に役立っています。一方で専門分野以外の業務も多いですが、大学院生活で培った粘り強さを糧に日々業務に励んでいます。

これから入学する方へのメッセージ

大学院での学びはよりハイレベルなものとなりますが、その分刺激的なことに溢れています。先生方や周囲の学生との交流を通して得られる経験は、必ず人生の役に立つと思います。2年間の大学院生活が皆さんにとって有意義なものになり、そして皆さんが大きく成長されることを願っております。

人文社会科学専攻 文化芸術コース修了

西野 亜唯



在学時の研究内容

在学時は、人それぞれが持つ普段の言葉で音楽を語り合う時、その語り合う言葉は創造的なのかということについて、ワークショップ〈てつがくオンガクかふえ〉の実践と分析を用いて考察しました。ワークショップは、集まった人達自身がお互いに好きな音楽を聴かせたり、語り合ったりしながら次々に紹介していく活動で、その中でどんな言葉が出てきたのかを観察しました。それを踏まえ、文献調査を用いて「創造」についても考察を進めました。修士課程終了後も、弘前大学大学院地域社会研究科に進学し、引き続き研究を進めています。

在学時の大学院生活の感想や思い出

学会への参加や学内での中間報告会など、研究発表はどれも印象に残っています。それぞれの場所で多様な視点を持った方々からいくつもアドバイスを頂き、自分の研究について再度深く考え直すことができる機会に多く恵まれたと思います。

大学院の研究と現在の仕事や研究との関連

現在も弘前大学の博士課程で研究を続けており、過去に実施

したワークショップの分析を更に進めたり、視点を改めたりしてみるなどして研究の幅を広げています。修士課程在学中に基礎的なことからしっかりと土台をかためることができたため、博士課程では自分のやりたい方向性を見出した状態で研究を進めることができています。

これから入学する方へのメッセージ

人文社会科学研究科では、自分の研究について基本的なことから見直し、構築していくことができました。大学院に進学することで、自分がやりたいことや考えを深めたい方向性について言葉にしていく術を得ることができるので、在学中にもその後にも深い意味のある経験になると思います。また、専門分野以外の先生方からも指導をしていただけるため、幅広い視点や知見を得られます。

修了生の進路

修了生の進路について、その一部を紹介します。

公務員

青森県庁

黒石市役所

江戸川区役所

企業等

全国保険医団体連合会

上北農産商事

北星ゴム工業

青森県社会福祉協議会

紅屋商事

名校教育グループ

tumugu(起業)

秋田魁新報社

エイ・ティ情報研

みちのく銀行

ムジコ・クリエイト

ミライト

農山漁村文化協会

近鉄・都ホテルズ

サイトウ商事

東北建設コンサルタント

横浜ソフトウェア

青南商事

専門職(教員・学芸員等)

青森県立高校

青森山田高等学校

北海道公立学校

集英文化学校

つがる市教育委員会

仙台市教育委員会

進学

弘前大学大学院地域社会研究科

東北大学大学院文学研究科

名古屋大学大学院情報学研究科

日本大学大学院経済学研究科

直近3年間における本研究科修了生の進路状況は次のとおりです。

	公務員	企業等	専門職	進学	帰国	その他 (現職者含む)
2021年度	1人	2人	0人	4人	2人	3人
2022年度	0人	4人	1人	1人	2人	8人
2023年度	3人	9人	0人	2人	4人	1人

Q & A

「弘前大学人文社会科学研究科の大学院生になりたい。でも、いろいろとわからないことが多くて不安だ」ということはありませんか。よくお寄せいただく質問にお答えします。

Q 研究テーマについて

人文社会科学研究科では、どのようなテーマについて研究できますか？

A 人間と社会に関するテーマなら、おおよそどのようなものでも

本研究科は、それぞれの専門分野で活躍する60名近い教員を擁しており、人文科学・社会科学全体をほぼ網羅しています（各教員の具体的な専門分野については、6～8ページをご覧ください）。そのため、人間と社会に関する研究テーマであれば、おおよそどのようなものであっても、それを深く掘り下げ、追求していくことができます（5ページをご覧ください）。また、豊富な教員研究者構成を活かして、領域横断的な研究に取り組むことができるのも魅力です。

Q 研究環境について

人文社会科学研究科の研究環境について教えてください。

A きめ細かな指導とサポートを提供しています

本研究科の場合、一学年あたりの入学定員は16名ですので、在籍学生数よりも所属教員が大きく上回ります。そのため、ほぼマンツーマンでの、きめ細かな研究指導を受けることができます。また、デスクも、院生間で共有するのではなく、個人専用のものが割り当てられますので、好きなときに、好きなだけ研究に打ち込むことができます。4ページもあわせてご覧ください。

Q 大学院の様子について

人文社会科学研究科での学習や研究がどのようなものか、具体的に知る機会はありませんか？

A 「市民カレッジ」など、さまざまな機会があります

講義科目に関しては、一般の方にも大学院科目を受講していただくことができます。13ページでもご案内している「市民カレッジ」というものです。また、研究に関しては、大学院生の研究成果発表会を一般の方にも公開しておりますので、ぜひ足をお運びください（詳しくは、4～5ページをご覧ください）。さらに、人文社会科学研究科の教員研究者をメンバーとする「弘前大学地域未来創生センター」が随時開催する、研究イベントに参加することもできます。この案内は、<https://human.hirosaki-u.ac.jp/>（人文社会科学部トップページ）からご確認ください。

Q 専門性と視野の広さについて

専門分野と研究テーマに深く通じたい一方で、広い知識と視野を持ちたいと思っています。

A まさにその二つを両立する人材の育成を目指しています

本研究科では、まさにそういった人材の育成を目指しています。本研究科を修了する要件として、人文社会科学の複数の専門領域にまたがる「多領域横断型科目」の単位修得を課しています。また、研究指導においても、副指導教員2名のうち少なくとも一人を所属コース外の教員が務め、多角的な視点からアドバイスします。

Q 修了後の進路について

大学院修了後に、どのような進路があるのでしょうか？

A 専門職への就職が多いことが、大学院修了者の特徴です

学部卒業後の進路と共通点もあれば、異なる点もあります。まず、共通点を挙げると、公務員・企業等の就職先の幅は、学部卒業生と同様と言えます。社会が成熟するとともに、大学院卒が敬遠されることはなくなりました。

一方、相違点をみると、大学院修了者の場合、その専門性を活かした専門職(学芸員・自治体の専門職員等)への就職が目立ちます。詳しくは、17ページをご覧ください。

Q 仕事と研究の両立について

現在、仕事を持って働いているのですが、どうしても研究したいテーマがあります。仕事と研究の両立は可能でしょうか？

A さまざまな制度で、両立を手厚くサポートしています

人文社会科学研究科では、働きながら研究したいという方を手厚くサポートする、さまざまな制度を設けています。そもそも、社会人としての経験があること自体、人文科学・社会科学の研究に取り組む上で、貴重な土台となりえます。

実際、毎年複数名の社会人の方が入学し、日々、専門的な研究に打ち込んでいます。また、研究科としても、社会人の方を積極的に受け入れるべく、「社会人特別選抜」という入試区分を設けています。さらに、職務がある以上、研究に費やす時間は限られ、標準的年限では修了しないことも十分予想されることから、じっくり研究に取り組める「長期履修制度」も設けています。詳しくは、12ページをご覧ください。

Q 在籍中の就職決定について

入学後、大学院1年次に就職が決まった場合、そのまま大学院で研究を続けることはできますか？

A 就職しつつ、研究の継続が可能です

大学院1年次に就職したケースがあります。

1年次に修了に必要な科目を修得し、2年次は仕事と研究活動を両立させ学位論文の提出を目指す方が多いです。

なお、研究の継続については就職先とご相談ください。

Q 先行履修制度について

弘前大学の学部生ですが、大学院へ進学し研究活動を深めたいと考えています。現段階から何かできることはありますか？

A 弘前大学の学部生であれば先行履修制度を活用できます

学部4年次に先行履修を申請して許可されると、計15単位まで大学院の専門科目を履修できます(学部4年次の履修と並行して行います)。履修した単位は、大学院に入学後、研究科において修得した単位としてみなします。これにより、大学4年次と修士2年間の計3年間、「好きな研究」に没頭できる時間を確保できます。

※大学院への進学を希望する方は、早い段階で希望指導教員に連絡を取り、事前相談をしてください。

アクセス

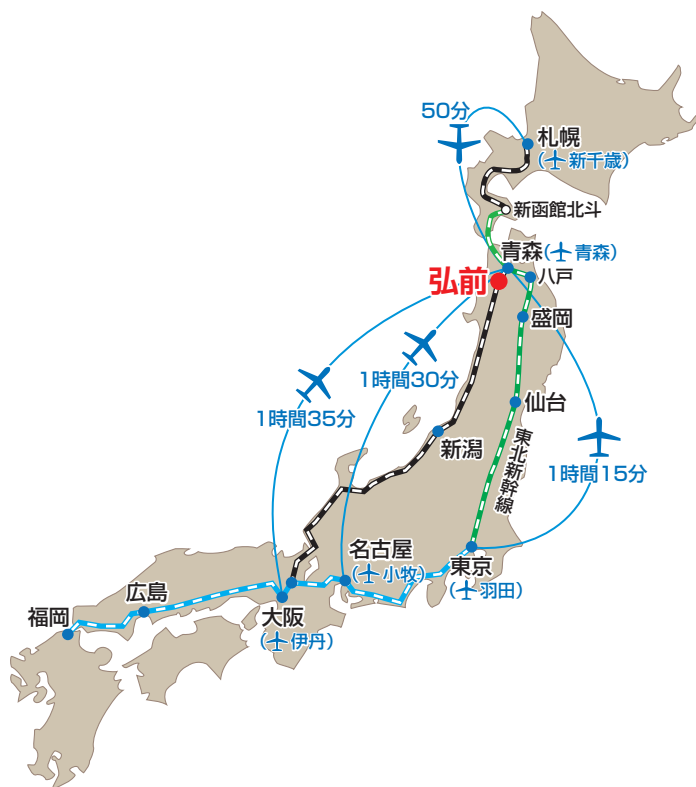
弘前大学大学院 人文社会科学部研究科までの 交通案内

- 徒歩
JR弘前駅から約20分。
- バス
JR弘前駅から約10分。
弘南バス「小栗山・狼森線」または
「学園町線」に乗車、「弘前大学前」で下車。
- タクシー
JR弘前駅から約5分。



弘前へのアクセス

- 新幹線
 - 東京 — (約3時間) — 新青森 — (約30分) — 弘前
はやぶさ 特急つがる
 - 新函館北斗 — (約1時間) — 弘前
はやぶさ
- JR奥羽本線
 - 青森 — (約30~40分) — 弘前
特急
 - 秋田 — (約2時間) — 弘前
特急
- 高速バス
 - 東京 — (約8時間30分) — 弘前
パンダ号
 - 横浜 — (約9時間45分) — 弘前
ニューノクターン号
 - 仙台 — (約4時間20分) — 弘前
キャッスル号
 - 盛岡 — (約2時間15分) — 弘前
ヨーデル号



さらに
詳しい情報は
こちらまで

ホームページ

弘前大学大学院人文社会科学研究科



お問い合わせ先

入学試験に関すること……………入試課・大学院担当	☎ 0172-39-3973、3193
入学科・授業料免除に関すること…学生課・経済支援担当	☎ 0172-39-3117
学生寮に関すること……………学生課・課外教育担当	☎ 0172-39-3107
教務に関すること……………人文・地域研究科 教務グループ	☎ 0172-39-3940
市民カレッジに関すること……………人文・地域研究科 教務グループ	☎ 0172-39-3941

募集要項の請求方法

募集要項及び入学志願票等の所定用紙は、**検定料を払い込むために必要な書類（払込取扱票）を除き**、入試課ウェブサイト（<https://nyushi.hirosaki-u.ac.jp>）からダウンロードできます。
払込取扱票及び所定用紙を印刷できない場合は、取り寄せる必要があります。
郵送を希望する場合の請求方法は、下記のとおりです。



	払込取扱票のみ請求する場合	募集要項全体を請求する場合
送付する封筒に記載すること	「大学院人文社会科学研究科払込取扱票請求」と朱書き	「大学院人文社会科学研究科学生募集要項請求」と朱書き
同封するもの	返信用封筒：角形2号（A4サイズが入る大きさ） 返信先の郵便番号、住所、氏名を記載	
	140円分の切手を貼付（速達を希望する場合は440円分の切手）	320円分の切手を貼付（速達を希望する場合は620円分の切手）
請求先	弘前大学学務部入試課 〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地	

※弘前大学学務部入試課窓口（総合教育棟1F）においても配付しています。

弘前大学大学院人文社会科学研究科

Hirosaki University Graduate School of Humanities and Social Sciences